

〔甲斐國志_{百二十三}産物及製造〕一蘭 萬力筋窪八幡諸村ニ植エ、爲蘭席甚多シ、蘭田ハ上々田ニテ上田ノ盛リヨリモ高ク、大抵壹段貳石貳斗ナリ、八幡内市河村ノ產ヲ佳トス、疊席ノ表ニ用フ、方言ニ上敷又御座トモ云、莞熊野村ヲ古昔ハ御座郷横井村ト稱シキ、此邊ニテ製セシコトナルベシ、河内ノ中山夜子澤村、切石村ノ邊ニテ作ヲ切石御座ト呼ブ、下部村、田原村邊ニテモ作ル、西郡ノ落合村、湯澤村、春米村邊ニテモ作リ蘭田アリ、此ニテ製スル莞筵ハ又緣方言ミ、カキト云、兩端ノ縁ヲ編ミ付ルナリ、疊表ニバ狹クシテ用ガタシ、一スヂ縦トテ絲ヲ一線スルナリ、凡テ蘭ヲ植ル處ニハ麻ヲ植ウ莞筵ノ絲ニ用フル故ナリ、湯澤御座、明王御座ト云、明王トハ春米ノ枝村ナリ、皆單席ニ用フ、

〔倭訓栞中編十〕亥ちたう 七島と書り、薩摩國に隸す。_{○中略} 七島蘭、七島おりてなどいへり、

〔大和本草八水草〕蘭_{○中略}

七島。海邊鹹淡相雜ハル淺水ノ地ニ生ズ、燈心草ニ似テ三角ナリ纖テ席トス、琉球ヨリ此席來ル、薩州ノ七島ヨリ多ク出ル、故ニ名ヅク、他州ニモ多シ、七島席ト名ヅク、民用ニ利アリ、

〔農業全書六草〕席草。

席草是を琉球蘭と云て、疊の面にうつものなり、うゆる時分蘭と同じ、六月刈取事も又同じ、白泥を付ざるのみ、うへ様刈かぶを其ま、をき、九十月掘おこし古根を去、分てうゆる事稻をうゆるにがはる事なし、こそを入れ中をかき、培ひをき、三月又糞を入れし、糞は河の泥と灰に人糞を合せて、根にをくべし、三月過は糞灰を入れからず、必虫を生じ色もあしくなる物なり、いか程も肥たる田に宜し、殊に潮氣のある干潟の邊、肥泥の所に取分よく出来るものなり、

〔廣益國產考三〕席草釋名

此席草を琉球蘭又七島蘭といふ。_{○中略} 蘭の形三角にして燈草より三ツ掛けほどふとし、又同